ちょっと寄り道

ゆかりの埋蔵文化財

平安時代、巨麻郡大井郷の中心であった大井地区、弘法大師伝説には、この地に生きたさまざまな人々の願いが映し出されています。

①住吉遺跡（現住宅・集合住宅）

弥生時代後期の住居跡や方形周溝墓と考えられる溝跡が発見されている。平安時代の遺物と土坑が見つかっていて、周囲に平安時代の集落があったことがうかがえる。また中世の溝跡からは、天目茶碗や緑釉陶器、擂鉢、香炉、漆製品など多量の遺物が出土しており、中世の人々のくらし一端を知ることができる。

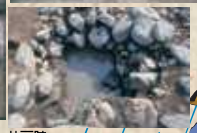
弥生時代後期の土器

②宮東遺跡

古墳時代前期の土器や中世の建物跡、井戸跡、木棺墓などが発見された。不動寺旧境内であることから、不動寺と関係する施設であると推測される。

礎石建物跡

木棺墓



井戸跡

コラム Column

弘法大師伝説と水

弘法大師空海は甲斐の国を訪れた史実はなく、伝説の数々は高野聖と呼ばれる遊行僧などによって弘法大師の信仰が広められ、地域の伝承と結びついたと考えられています。今回ご紹介した大井地区だけでなく、市内には他の地区にも弘法大師伝説が残されています。例えば御勅使川の伏流水が湧出する加賀美の法善寺にはこんなお話が伝えられています。

法善寺境内に湧き出る泉は「烏池」と呼ばれ、池の中島に井戸が掘られています。その底が竜宮に通じており、弘法大師がこの池で雨の祈祷をしたところ、翌朝に雲を呼び、雨を降らせたと伝えられています。それ以来、ひでりの時にこの水を汲んで雨乞いを行えば、その夜、龍が背中に明るい火を灯してこの井戸の上を横切り雨が降ったと言われました。そこからこの水は「竜神水」と呼ばれています。

法善寺の井戸

一方、御勅使川の洪水が頻繁に起こり、「月夜でも焼ける」と呼ばれるほどの旱ばつ地帯であった存家家の大城寺では、こんな言い伝えがあります。

平安時代に起きた御勅使川大水害の復旧のため、空海が朝廷より勅使として遣わされました。空海は、原七郷の守り神として大城寺に聖沙門天像を彫り、七年の畑作物を行荷する免許状を像内に納め奉納したとも言われています。

弘法大師伝説は、水の豊かな地域や洪水に苦しめられ水の獲得に苦労した地域など、「水」をキーワードとしてそれぞれの地域と深く結びついています。

③村内遺跡（現駐車場）

古墳時代中期の竪穴住居跡。住居跡から多数の壺や甕、高坏などが発見されている。

古墳時代中期の竪穴住居跡

古墳時代中期の土器

④東出口遺跡（現住宅）

弥生時代から古墳時代、そして奈良・平安時代から中世まで連綿と続く大規模集落跡。奈良・平安時代、この地域は巨麻郡大井郷（こまぐんおおいのごう）に属しており、郷の中心集落のひとつであった可能性が高い。

平安時代のカマド跡

平安時代の住居跡

⑤二本柳遺跡（現甲西バイパス・中部横断道、現畑道）

中世の水田跡および戦国時代の寺院跡。戦国時代の木棺墓には板材に梵字などが墨書され、内部からは灰、稲穂を載せたかわらけ、銭貨、植物の種子が出土した。このことから寺院にかかわりの深い人物が火葬され、副葬品と共に埋葬されたことが推測されている。また農道の調査では、法善寺の塔頭福寿院跡が発見されている。

発掘調査風景

小皿（戦国時代）

木棺墓

木棺の蓋を開けたところ

法善寺境内図

⑥向河原遺跡・油田遺跡・中川田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

水の豊かな湧水地帯を利用して営まれた、弥生時代から江戸時代までの水田跡が発見されている。とりわけ油田遺跡では、籾や雑穀の種子の圧痕が残されている壺片や木製竪杵などが出土していて、当時の食にかかわる貴重な資料となっている。

水田跡　向河原遺跡

平安時代の水田跡
油田遺跡

出土した木製の竪杵（弥生時代中期）　油田遺跡

⑦大師東丹保遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

鎌倉時代の杭で護岸された水田跡や水路跡、そして低地の開発を主導した有力者の屋敷と推測される建物跡が発見されている。水田跡からは五芒星「☆」を記した呪符木簡（じゅふもっかん）や人形（ひとがた）、斎串（いぐし）などまじないに使われた木製品が多く出土しており、この地に暮らした人々の切実な願いが伝わってくる。

遺跡全景

斎串

人形

出土した呪符木簡

⑧宮沢中村遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

明治33～42年に全村42戸が現在地へ移転するまで居住していた旧宮沢村の集落跡。建物は水害に備え盛り土された上に建てられている。溝で区画された寺や民家、井戸、流し場などの遺構が発見されており、江戸時代後期の農村風景を復元できる遺跡である。

本堂跡

出土した磁器

七面堂跡

平成20年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会　文化財課
☎055-282-7269

遺跡で散歩

vol.6

MINAMI-ALPS CITY